

令和5年度大洋学園事業報告

《施設の概要》

・名称及び所在地

「大洋学園」 〒022-0006 岩手県大船渡市立根町字下欠 125 番地 15

Tel 0192(26)2714 Fax 0192(26)2771 Email taiyogakuen@taiyokai.or.jp

・施設の種別 児童養護施設

・設置主体 社会福祉法人大洋会

・概要 定員：41名

[本体施設：大洋学園（35名）]

施設規模：敷地面積 4,940 m² 床面積 1,288.16 m²（鉄筋コンクリート造 2階建て）

施設内容：事務室 湯沸室 印刷室 職員室 宿直室 静養室 医務室 男子・女子・職員・調理員便所 調理室 食品倉庫 調理員休憩室 ホーム5 図書室 ユニットケア4 自活訓練室 居室3 リネン室1 男女浴室 機械室 多目的ホール 心理棟 屋外倉庫

[地域小規模児童養護施設：若葉ホーム（6名：本体施設定員外）]

所在地：岩手県大船渡市猪川町字轆轤石 69 番地 13 号

施設規模：木造 2階建て 床面積 99.74 m²

[小規模グループケア：さくらホーム（6名：本体施設定員を含む）]

所在地：岩手県大船渡市猪川町長谷堂 61 番地 28

施設規模：木造 2階建て 床面積 167.92 m²

[小規模グループケア：双葉ホーム（6名：本体施設定員を含む）]

所在地：岩手県大船渡市猪川町字下権現堂 1 番地 14

施設規模：木造二階建て 床面積 148.4 m²

・目的

乳児を除いて保護者のない児童、虐待されている児童、その他環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせてその自立を支援することを目的とする。

・沿革

昭和 30 年 3 月 29 日 大洋学園開園（大船渡町字明神前 33）

昭和 42 年 3 月 28 日 大洋学園園舎移転（猪川町字久名畑 120 番地 3）

昭和 51 年 4 月 29 日 宮内庁より御下賜金拝受

昭和 60 年 5 月 12 日 大洋会・大洋学園 30 周年記念式典

平成 4 年 3 月 22 日 大洋学園現園舎へ移転

平成 15 年 10 月 1 日 地域小規模児童養護施設「若葉ホーム」事業開始（前田 16 番地 15 号）

平成 16 年 11 月 1 日 小規模グループケア「さくらホーム」事業開始（藤沢口 50）

平成 20 年 4 月 15 日 園舎拡張（つばさホーム・心理棟）・改修（ひまわり G ホール）工事竣工

平成 23 年 1 月 20 日 園舎一部ユニットケア化改修工事竣工

平成 23 年 2 月 11 日 本園一部ユニットケア開始（希望・飛翔ホーム）

平成 23 年 3 月 11 日（14:46）東日本大震災発生

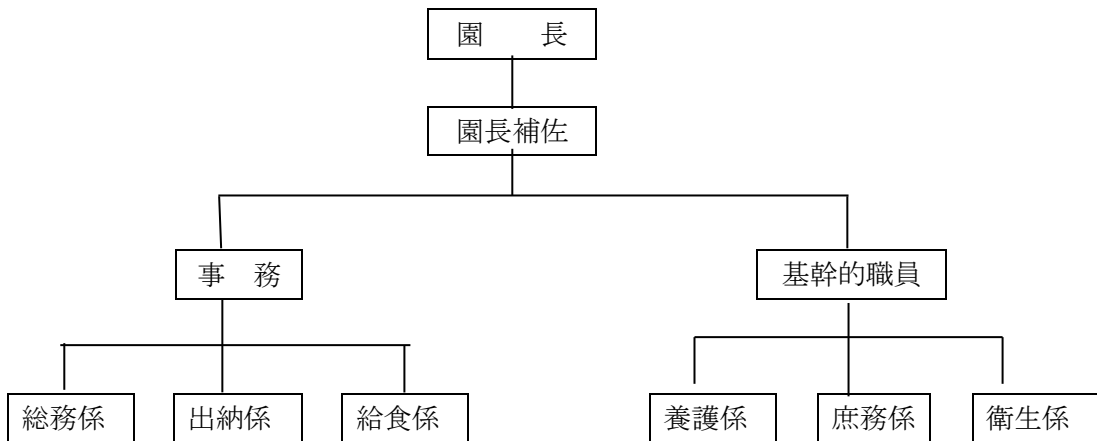
平成 23 年 9 月 3 日 小規模グループケア「さくらホーム」新家屋を購入し、猪川町字藤沢口 50 から猪川町字轆轤石 69 番地 13 号に移転

平成 25 年 5 月 18 日 「光輝ホーム」「ひまわりホーム」ユニット化改修工事竣工、全面ユニットケアに移行

平成 30 年 4 月 1 日 猪川町字長谷堂 61 番地 28 に新家屋を購入修繕し、分園型小規模グループケア「さくらホーム」として利用開始。猪川町字轆轤石 69 番地 13 号の旧「さくらホーム」は地域小規模児童養護施設「若葉ホーム」に種別変更。

令和 2 年 8 月 1 日 猪川町字下権現堂 1 番地 14 の一軒家を借用し、2 か所目の分園型小規模グループケア「双葉ホーム」として新規利用開始。

《組織図及び職員名簿》



児童養護施設大洋学園本体					
園長	中村 賢司	補 佐	熊谷 努	個別対応職員	今野 里美
家庭支援専門相談員	千葉はるか	家庭支援専門相談員	新沼 弘樹	心理療法士	船野 克好
心理療法士	志賀野幸司	里親支援専門相談員	志田真理子	栄養士兼調理員	鈴木 茜
特別指導員	鈴木 優作	事務員	千葉 智江	嘱託医	大津 定子
希望ホーム		飛翔ホーム		地域分園型 GC 双葉ホーム	
児童指導員(チーフ)	及川由香里	児童指導員(チーフ)	嘉藤 護	保育士(チーフ)	佐々木 薫
保育士	佐々木 歩	保育士	栗村 勇斗	保育士	鈴木 勇
保育士	藤倉 聖子	保育士	笠原 大広	調理員兼保育士	和田 亜美
児童指導員	千代 若菜	児童指導員	小野寺 涼	宿直専門員	武田喜久子
		児童指導員	臺 豊正		
ひまわりホーム		光輝ホーム		地域分園型 GC さくらホーム	
保育士(チーフ)	高橋久仁江	保育士(チーフ)	金野 聖	保育士(チーフ)	小島 隆規
保育士	伊藤 直樹	保育士	中野由美子	児童指導員	只野 大介
調理員	磯谷 千秋	保育士	佃 実佳	調理員	新沼利江子
児童指導員	道合 恵子	児童指導員	福原 成美	児童指導員	永澤 匡樹
		宿直専門員	吉田 尚美	宿直専門員	長澤 麻希
地域小規模児童養護施設 若葉ホーム					
児童指導員(チーフ)	佐々木裕也	保育士	井上 優香	指導員	村上 栄輝
宿直専門員	川口美穂子				

- ・宿直専門員 長澤麻希 4月採用
- ・児童指導員 福原成美 6月から産休・育休 ・児童指導員 佐々木由香里 10月より産休・育休
- ・児童指導員 嘉藤 護 6月に脳内出血のため入院及び自宅療養
- ・宿直専門員 吉田尚美 7月入職 児童指導員 永澤 匡樹 12月入職
- ・児童指導員 臺 豊正 12月退職

1. 大洋学園が指定を受けている付加事業

子育て支援短期利用事業 (平成5年度より実施)	ショートステイ : 令和5年度0件 0名 (延日数 0日) トワイライトステイ: 令和5年度0件 0名 (延日数 0日)
----------------------------	---

2. 視察・ボランティア・招待等

月	慰問・視察・奉仕	月	慰問・視察・奉仕
6	二子更木地区民生児童委員視察	12	日に青い寄付
11	更生保護婦人会寄付		
12	大船渡ライオンズクラブ(大和リパティアー)慰問 コバック寄付	1	長谷寺鏡餅贈呈
	大船渡市地域婦人団体連絡協議会慰問 サンタプロジェクト慰問	2	高城写真卒業記念写真撮影ボランティア カーブス寄付
	インターアクト・西ロータリークラブ慰問	3	日に青い寄付

3. 主な行事報告

月	日	行事名	日	行事名
4	1	ホーム発表	2	小学生との話し合い
	3	中学生との話し合い	4	高校生との話し合い/リーダー会議
5	25	中学校との学洋懇談会		
6	6	小学校との学洋懇談会	25	大船渡市長杯
7	16	流しそうめん		
8	2	夏行事実施期間～10日		
9	24	BBS球技大会		
10	8	旭が丘定期戦		
11	4	全体旅行～5日		
12	7	大洋学園歳末演芸会		
2	10	テーブルマナー 全体写真撮影	25	園内球技大会
3	19	大洋学園送別会 卒園生との会食会		

4. 主な研修会・諸会議等

(全: 全国児童養護施設協議会 東: 東北ブロック児童養護施設協議会 岩: 岩手県児童養護施設協議会 児: 児童福祉施設協議会 県: 岩手県 社: 岩手県社会福祉協議会 児相: 児童相談所 明: 明治安田こころの健康財団 虹: 子どもの虹情報研修センター 事: 岩手県社会福祉事業団)

月	日	研修・諸会議等	参加者	月	日	研修・諸会議等	参加者
5	8	(岩)養護研究部主任会議	補佐・里美	7	14	(岩)養護研究部主任会議	補佐・里美
	8	(岩)広報部主任会議	聖	9	19	FSW 定例会	はるか・弘樹
	9	(岩)給食研究部主任会議	茜		28	東北ブロック専門職研修	3名
	11	(児)第1回幹事会(盛岡)	園長	10	4	(岩)養護研究部主任会議	補佐・里美
	11	(岩)事務福利厚生部主任会議	智江		5	(岩)事務福利厚生部主任会議(青森)	3名
	11	(岩)幹事会	園長・補佐		22	(岩)養護研究部主任会議(盛岡)	補佐・里美
	26	FSW 定例会	はるか・弘樹	11	1	(児)施設間交流研修会(盛岡)	小島
6	1	(岩)里親基礎研修	補佐・里美		7	(児)専門委員会(盛岡)	小島
	5	(岩)養護研究部主任会議	船野		14	(岩)研修会(盛岡)	3名
	6	子どもの虹事例検討会(神奈川)	5名		27	(岩)広報部主任会議(盛岡)	聖
	8	東北ブロック研修(秋田)	志田	12	7	(岩)養護研究部主任会議(盛岡)	補佐・里美
	21	里親委託推進委員会	志田		11	(岩)養護研究部主任会議	補佐・里美
7	3	FCP 養成講座(東京)	はるか・弘樹	1	12	(岩)広報部主任会議(盛岡)	聖
	6	FSW 定例会	補佐・里美	2	15	(岩)全体研修会(盛岡)	6名
	10	(岩)養護研究部主任会議	弘樹		19	中堅職員研修(東京)	只野
	10	キャリアパス研修	志田	3	8	児童協・岩養協幹事会(盛岡)	補佐・里美

〔園内諸会議・委員会〕

- @職員連絡会議：情報共有・周知のため毎日13:30より開催。状況に応じケース会議に移行
- @運営委員会：職員運営委員による運営の課題や問題を検討後、職員会議で決定。
- @給食委員会：献立や衛生管理について検討後、職員会議で決定。
- @チーフ会議：ユニットチーフで構成し月1回以上の開催。養育支援に関する情報の共有と協議。
- @自立支援計画策定会議：子ども一人ひとりの自立支援計画を年2回検討。
- @ヒヤリハット委員会：報告書や日常の中で気付いた事項の分析・改善。
- @ケースカンファレンス：重篤ケースを対象に開催。
- @五葉新聞編集委員会：学園新聞の編集・作成。
- @園内研修：研修委員会を設置し、外部・内部講師プログラムや伝達研修を全職員対象に実施。

5. 実習生受け入れ状況

期	間	人数	依頼機関	備考
5/22	~5/31	2名	仙台青葉学院短期大学	保育
6/5	~6/14	2名	尚絅学院大学	保育
8/19	~8/25	1名	盛岡医療福祉スポーツ専門学校	社福
9/1	~9/30	1名	盛岡医療福祉スポーツ専門学校	社福

9/26~10/3	1名	盛岡医療福祉スポーツ専門学校	社福
8/28~9/2 10/6~10/9	2名	聖和学園短期大学	保育
10/16~10/25	1名	宮城誠真短期大学	保育
7/17~7/21 10/26~11/2	1名	小田原短期大学	保育
11/1~11/10	2名	盛岡大学短期大学部	保育
11/13~11/22	1名	岩手県立大学	社福
11/27~12/6	1名	岩手県立大学	社福
11/27~12/6	2名	北上保育教育専門学校	保育
1/15~1/24	2名	北上保育教育専門学校	保育

6. 月間移動状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
月首	34	36	37	37	37	37	37	39	39	39	38	38	400
初日入所													
初日退園													
初日在籍	34	36	37	37	37	37	37	39	39	39	38	38	400
中途入園	2	1					2						5
退園										1		6	7
月末	36	37	37	37	37	37	39	39	39	38	38	32	401
一時保護委託				1	1			1					3

7. 期末在園児の年齢・男女別状況

令和6年3月1日現在

	1・2歳児	未就学児	小学生							中学生			高校生他					合計			
			1	2	3	4	5	6	小計	1	2	3	小計	1	2	3	4		他	小計	
男		2			2	1	2	2	7	2	4	2	8	1	1	3				5	22
女		2	1	1		2		4	8		1	1	2	1	3					4	16
計		4	1	1	2	3	2	6	15	2	5	3	10	2	4	3				9	38

8. 期末在園児の出身地別状況

令和6年3月1日現在

岩手県福祉総合相談センター		岩手県宮古児童相談所		岩手県一関児童相談所	
盛岡市	4	宮古市	1	一関市	4
滝沢市	1	釜石市	4	大船渡市	7
北上市	2	山田町	2	陸前高田市	1
遠野市	2	岩泉町		奥州市	9
八幡平	1				
合計	10	合計	7	合計	21

9. 本年度3月退園生の進路状況

進路	在園高校進学	上級学校進学	高校卒就職	その他
男子	1	1	2	0
女子	0	0	0	0
計	1	1	2	0

10. 生活の目安

☆ひまわりホーム（15時以降は児童と同じ※就寝時間は20時）

時間	活動内容	時間	活動内容
6:20	起床・掃除・食事準備・朝食・片付け	12:00	昼食準備・昼食・片付け
8:00	4~5歳児登園準備	14:00	4~5歳児帰園:幼稚園バス迎え
9:00	4~5歳児登園:幼稚園バスが迎え	15:00	おやつ・工作等
10:00	おやつ		

☆学童ホーム

平 日		休 日	
6:20~	起床・朝食・片付け	8:00	朝食・片付け
7:30	登校	12:00	昼食・片付け
18:00~	夕食・片付け・入浴	17:00	夕食・片付け・入浴
21:00	就寝（小学生）	21:00	就寝（小学生）
22:00	就寝（中学・高校生）	22:00	就寝（中学・高校生）

11. 各ホーム活動

・ひまわりホーム（担当：高橋久仁江、伊藤直樹、磯谷千秋、道合恵子）

今年度のひまわりホームは、4月下旬から女兒が入所し、長期の一時保護児童が9月に引き取りとなりました。その後、9月に女兒が入所・10月にショートステイ・11月に一時保護児童が入所。3月には男児が家庭引き取りとなりました。4名か5名で出入りが慌ただしい状況でした。出来るだけ落ち着いた生活の中で楽しく安心して過ごせるよう支援に工夫をしました。

7月にホーム内でコロナに感染しましたが、重症化せず感染も拡大もありませんでした。他の感染症にも罹患し、通院が多くありました。ホームでは、釜石イオンに買い物外出しました。個人差は、あるがそれぞれ絵や文字に興味を持ち成長みられました。

・希望ホーム（担当：及川由香里・藤倉聖子・佐々木歩・千代若菜）

今年の希望ホームは、高校2年女兒、中学2年女兒、小学6年女兒2名、小学4年女兒の5名でスタートしました。その後5月末に中学3年女兒が入所、11月中頃に小学1年女兒がホーム異動になりましたし、職員については9月に末から及川（指）が産休に入りました。

前年度からほとんどメンバーが変わらず落ち着いて過ごしていたのですが、11月に小学1年女兒が異動になってからは、トラブルが目立つようになり、1月に退所児が発生してからは、全体が落ち着かない状況が続き、特に小学6年女兒を中心に問題行動が多発しました。行事では、どの子も張り切り、相手を喜ばせよう、楽しませようと協力して取り組むことができました。

ホーム行事は海水浴、買い物外出、いちご狩りを実施し、遠出や買い物等を楽しみました。

・光輝ホーム（担当：金野聖・中野由美子・佃実佳・福原成美・吉田尚美）

今年の光輝ホームは、小学生1名、高校生4名の5名でスタートしました。コロナは五類になりました

たが、集団生活という事もあり継続で制限のある生活をしました。しかし、ホームや学園全体の行事等も徐々に行うことができ、子ども達からも楽しかった等の声も聞こえてくるようになってきました。来年度は元に戻ってほしいという話もある為、感染症対策を徹底して、完全ではなくても元の生活に戻ってほしいと思います。

・飛翔ホーム（担当：嘉藤 護・栗村勇斗・笠原大広・小野寺涼・臺豊正）

今年度の飛翔ホームは高校3年生2名、高校2年生1名、中学2年生1名(入院中)、小学6年生2名の計6名でスタートしました。6月に嘉藤、11月に臺が体調不良でシフトから外れましたが、専門職、他ホームの担当に協力して頂き、1年間やり通す事が出来ました。

高校3年生の二人が進路に向けてそれぞれ取り組みをする中で、余裕が無く学園行事に消極的になる様子見られ、行事やホーム会議等での話し合いも雰囲気が悪くなる事が多く、周囲に良くない影響が出る可能性があったため、情報周知や共有の場を設けず、個別に対応することで伝えてきました。

ホームの年齢差が開いており全員で仲良く遊ぶことは少なく、ホーム行事の内容もそれぞれの希望をすり合わせて1度だけ実施することが出来ました。世代間でのトラブルはほぼ無く過ごす事が出来ました。小6同士のトラブルは頻発する時期があり注意して見守ってきました。

年度後半は高3生の対応が多く、周りの子どもたちに協力を貰いながら進路に向けた取り組みを一緒にやりそれぞれの進路実現につなげる事が出来ました。

・双葉ホーム（担当：佐々木薫、鈴木勇、和田亜美、武田喜久子）

今年度の双葉ホームは男児4名、女児1名でスタートし、10月に女児1名が加わり、3月に男児1名退所となりました。

騒がしくなってしまうことや、言葉が足りず誤解が生じ、トラブルになることもあり、何度もホーム会議を実施しました。互いに気持ちよく生活できるように話し合いを重ね、解決できるようにしてきました。

自分の目標に向けて努力する姿や、掃除や調理、食器の片付け等、お手伝いをしてくれることもみられ、それぞれ成長も感じられました。

ホーム行事も海水浴や買い物、映画鑑賞など、みんなで外出を楽しむことができました。

・さくらホーム（担当：小島隆規・新沼利江子・只野大介・永澤匡樹・長澤麻希）

今年のさくらホームは、中学3年男児、中学2年男児、中学1年男児、小学6年女児2名、小学5年男児の計6名でスタートでした。職員については、12月に永澤（指）が入職し、さくらホームに配属となっております。

年度当初、中学3年男児と小学6年女児が手を組み、小学5年男児に対して、指導したり、意地悪することが多々ありましたが、お互い生活していく中で、徐々に慣れ次第にトラブルになることも減ってきました。年度末には、中学3年男児と小学5年男児が仲良くお互いの居室の掃除や模様替えをしたり、一緒に遊ぶ場面が増えたりと2人の関係性は今では良好になっております。小学6年女児の発言や行動でトラブルに発展することが多々ありましたが、基本的にはみな仲良く過ごした1年だったと思います。

ホーム行事も2回実施することができ、買い物や遠出を楽しみました。

・若葉ホーム（担当：佐々木裕也、村上栄輝、井上優香、川口美穂子）

今年度の若葉ホームは高校生2名、中学生2名、小学生1名の計5名でスタートしました。日常生活の支援はもちろんです。卒園生1名、退園生1名の進路も考えながら支援を行ないました。どちらも無事に大洋学園を巣立っていきました。どの子どもも頑張り、成長してくれた一年間でした。

1 2. 家庭支援総括

対象児童 38名（27世帯）

対象児童、新規入所家庭を中心に家庭支援にあたってきました。年度当初は33名、23世帯を対象にしてきましたが、途中入所5名（4世帯）も含めた対応になりました。主に電話連絡や家庭訪問、来園時の対応にあたり、子ども一人ひとりの自立支援を家庭と協働して行う事を目的に行ってきました。園内においては、担当、心理、個別と連携を図り、情報共有と支援の検討を重ねて実施につなげてきました。各関係機関とは児相を中心に、学校、医療、市町村などと連携を密に行い、役割分担を行いながら支援の方向性にズレが生じないように意志統一を行いながら対応してきました。今年度はコロナが5類となり、これまでよりも帰省や家族交流の実施を行うことができたように感じます。その事もあってか、年度当初には予定していなかった家庭引き取りのケースもあり、限られた時間の中で引き取りの可否を判断しなければならなかったケースもありました。今年度は3名3世帯の引き取りがありました。また、途中退所になったケースでは、在園期間は長かったものの家族交流は乏しく退園した後も家族との繋がりが十分ではなかったため、18歳で自立する子どもたちをどこまで施設としてバックアップしていけるかが課題となったケースがありました。

また、ライフストーリーワークや入所の経緯の説明など、子どもにとってはとても大きな出来事の振り返りを十分時間かけて行えなかったことや、家庭支援においてケース自体があまり動きのなかったものもあり、課題もありました。園内の職員不足に伴うホームカバーなどもあり、家庭支援の動きが十分ではなかったこと、また人員不足によるショートや一時保護の受け入れが十分でなかったことも、感じられた1年でした。

次年度も定員に空きがある状況でのスタートとなるため、新規での入所も十分に考えられるので、担当や専門職と協働して家庭支援ができるように努めていきます。

1 3. 個別対応状況

(1) 対象児童

今年度の対象児童数は、前期8名、後期7名でした。

(2) 実施方法

自立支援・個別対応の支援目標に応じて個別の時間をつくり、個別面談を行ないました。ホームカバーの時間が多く相談室を利用した面談だけでなく、ホーム勤務を利用して居室で面談を行ったり、制作を行ったりして対応しています。自己表現の機会として、チビッコ絵画展、こころのあかり絵画コンクールへ向けて絵画の取り組み・応募の連絡をし、計22作品を応募しています。来年度も継続して絵画展応募の声がけを行っていきます。

目標や夢をコルクボードに描く夢の宝地図づくりは、希望者が出た際に行いました。学校での学習や宿題が自分の将来と結びついていない子も多いので、学習ボランティアによる学習会の日程調整を行いながら、必要性を伝える機会を持っています。

お金の使い方について将来の夢や生活につながるように、NPO法人の研修を1月に計画しましたが、感染症流行もあり今年度は実施できませんでした。来年度は、希望する中高生と職員を対象とし早い時期の実施を計画していきます。

(3) 情報交換の機会を持つ

ケースカンファレンスについては、心理職員が中心となって進めてくれており、園内でよりよい支援を行うために話し合う機会となりました。参加できるカンファレンスやケース会議には参加し、情報共有に努めました。

(4) その他

子ども手帳、担当不在時のホームサポートの機会も利用して、対象児童以外にもできるだけ多くの子どもとかわるよう心がけ対応しました。

14. 心理療法状況

令和5年度の心理療法対象児童は16名(男9、女7)で、個々の課題や特性に応じて言語面接、プレイセラピー、心理教育等を実施しました。また、対象児童のうち6名が児童精神科・小児科による服薬治療を受け、心理士も通院時に同行をしたり関係者との支援会議に参加したりするなど、医療機関と連携・協働に努めました。

その他の心理支援業務として、新規入所児童にかかる職員間の共通理解を図るために入所カンファレンスを7回実施。児童のライフステージの変化に合わせた支援の一環として、いわゆる中一ギャップに関する説明を6名の児童に実施。さらには、児童が自身の生い立ちについて適切に理解できるよう、FSWと連携してライフストーリーワークを随時実施しております。

心理士がホームカバー等の生活支援業務に入ることが多く、予定または計画どおりに心理支援を実施することができなかつたため、次年度は児童の心理的課題に対して必要な支援を中長期的に積み重ねられるよう、計画的に時間を確保したいと考えます。

15. 里親支援

今年の大洋学園里親支援は、気仙支部18組の里親、宮古・釜石で里子を受託中の養育里親、震災による1組の親族里親を対象に里親支援活動をしてきました。

実態としては電話相談や家庭訪問が中心となり、今年度は児相担当職員に加えフォスタリング機関ぜんゆう職員との同行訪問の実施、単独訪問等行いました。その際の訪問等の様子については随時児相へ報告しました。

今年度は宮古児童相談所管内にも里子が受託となった2組の里親があり、里親子を交えた支援者顔合わせ会や里親応援会議にもそれぞれ参加しています。

また、里親基礎研修、登録前、更新研修等にも可能な限り出席し、施設実習では積極的に受講者の受入れも行いました。

普及啓発活動では一関・宮古児相主催で行われた里親制度説明会や商業施設等でのパネル展示、図書展示、市町村ブース展示に積極的に参加し、地域への周知啓発活動に力を注ぎました。

さらに親族里親サロン、里親交流研修サロンなど里親が集まる場に参加し普段見られない里親の温かい姿に触れることができました。3年ぶりに開催された大船渡市長杯里親ボランティア、大洋学園子ども食堂に里親子を加えて頂いたことや気仙、釜石の未委託里親とひまわりホームの子ども達が触れ合えた機会は、里親にとっても、支援者側にとっても貴重な触れ合い時間となりました。

7月には県からの補助を受け、フォスタリングチェンジプログラム (FCP) ファシリテーター養成講座を受講させて頂き、9月から11月までの3か月間ファシリスタッフとして花巻会場へ参加しました。このほか気仙二市一町の要保護児童対策地域協議会や子ども支援会議等に出席し関係機関との地域連携に努めました。

一関児相、宮古児相管内に特化し里親支援業務に盛んに携わった1年でした。

16. 自治会及び部活動

(1) 自治会

今年度の自治会活動は、自治総会を中心に行いました。4月の総会において、園長からの今年度の大洋学園の取り組み説明と、権利ノートの読み合わせを行いました。また、自治会年間目標もホーム毎に

話し合い、「手洗い・うがい・マスク着用を徹底しよう、人を傷つけない言葉遣いや行動をする、物を大切に、自分のことは自分です、誰に対しても感謝の気持ちを忘れない」、と決まりました。定例総会では、善行賞が贈られ、ホームで手伝いをしてくれた子や3年間部活を頑張った子など、生活で良い行いが見られた児童に贈られました。リーダー会議も開催され、今年度は感染症の継続状況で歳末演芸会等をどのように開催していくか、話し合いを重ね高校生の意見を中心とした行事の開催につながっていきました。

(2) 野球部

今年度は数年ぶりの市長杯の開催に伴い、部の活動も再開しました。子どもたちも意欲がある子どもが多く活発な活動をすることができました。球技大会の中止が続いたことで野球経験の少ない子ども達が増えましたが、野球経験のある児童が中心となり、いい雰囲気練習することができました。また、試合当日も一生懸命プレーする事ができていました。来年度の大会に向けて意欲的になっている児童もいるため、来年度は優勝できればと思います。大会成績は市長杯が第3位・BBS球技大会が初戦敗退となっています。

(3) ソフトボール部

今年度は、大船渡市長杯の前に園庭にてキャッチボールやバッティング練習を行ったり、田中島グラウンドを借用し練習を行うことが出来ました。しかし、旭が丘との定期戦の際には、付き添い職員の調整がつかず練習を行うことが出来なかったのは残念です。どの子も市長杯や定期戦の際には、一生懸命プレーしたり応援する姿がみられました。【小学生14名】

17. 地域交流活動

今年度は上・下富岡・長谷堂、下権現堂の行事等に招待や支援を受けてきましたが、コロナについては5類にはなったものの、感染症の関係で例年通りの行事に参加する事がほとんど出来ませんでした。そんな中、学園まで足を運んでいただいた方々も多く、職員児童一同本当に感謝しております。

各学校行事は各PTA行事、各部活動の会合、父母会への参加及び協力、野球スポーツ少年団への協力等できることは引き続き行っています。小学校、中学校との懇談会は昨年に引き続き感染症の為、面談と施設見学だけで規模を縮小して実施しました。支援学校との懇談会は日程が取れず実施することが出来ませんでした。

子ども食堂は、コロナの影響で行う事が出来ていなかったが、計画や感染対策を徹底したうえで、6月に1回実施する事ができました。地域の方々の参加も多くあり、地域の家庭との繋がりを作る機会ともなりました。次回開催の予定を保護者に確認されたり、またやってほしいと言ってくれる子どももいたりとした為、今回の反省点を踏まえ次回に繋げていければと思います。

来年度もご支援いただいた方々への感謝を子ども達と共有しながら、地域活動には積極的に参加し、地域の方々にも数多く足を運んでいただける施設となり、地域の中にある大洋学園として子育てが出来ればと考えています。

18. 保健衛生

児童・職員共に、年に2回の健康診断を実施（児童：7～9月、2月嘱託医／職員：7～9月嘱託医、1月予防医学協会）。嘱託医の大津ファミリークリニックの体制が変わったことや実施期間内に感染症が発生したこと等で、前半の健康診断の受診にかなりの期間を要しました。また、隔月で、児童の身長・体重の測定を行っております。

園内美化については、毎日各ホームで掃除を行い、共有スペースについては分担して取り組みました

が、掃除が行き届いていないところがあったので、職員同士声を掛け合いカバーし合えばよかったですと感じます。また、本園は13時から、分園はそれぞれのホームで定めた時間に毎日消毒作業を実施し、感染症対策に努めました。

児童・職員共に毎日のバイタルチェックを行い、健康管理に努めましたし、通院についてはホーム担当職員を中心に対応し、服薬のある児童については服薬確認表を使用し飲み忘れや誤飲のないよう対応しました。

また、各ホーム担当職員と連絡を取り合い、眼鏡購入やレンズ交換、受診券の申請手続きを随時行いました。

感染症予防として手洗い・うがい・消毒・換気・マスクの着用を行い、5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが季節性インフルエンザ等と同じ「5類」に移行した後も、職員については継続対応しております。また、感染予防に必要な物品の購入をまとめて行うとともに、安心した生活の実現の為にマニュアルを整備。必要に応じて抗原検査を取り入れたり、感染者が発生した際には緊急の職員体制を組む等、感染症の拡大防止に努めました。予防接種については、定期接種やインフルエンザワクチンに加え、B型肝炎やおたふくかぜ等の任意のワクチンについても実施しました。

19. 被服の支給

高校生2万4千円、中学生2万円の個人予算の中で衣類を自己選択して購入しました。予算の使用方法については、それぞれ担当職員と相談しながら、必要に応じた衣類の購入や、予算の範囲内で好みの物を選択するなど、各担当が経済観念を養えるよう支援してきました。また、幼児や小学生については、必要なものを担当職員と一緒に買い物や在庫の被服を選択し、自己表現が出来るよう支援しました。

リネンの整理作業や、毛布のクリーニング、寝具の整理を行っています。

今年度も多くの寄付をいただき、衣類や寝具、タオル等、子ども達のために活用させていただきました。在庫の確認をしながら、これからも必要に応じて被服の支給をしていきます。

20. 給食

こどもの心身の健やかな成長・発達において、食べることは基本であり、この時期に食を営む力を育むことは生涯にわたる健康づくりの基盤となります。こども一人ひとりの発育・発達段階に合わせて、ともに、豊かな食体験や将来の食生活の自立に向けた支援をしてきました。食に関する嗜好や体験が広がり深まるように、行事食も積極的に取り入れ食事からも季節を感じられるように献立の組み合わせ等も工夫してきました。児童養護施設で暮らすこどもの多くは家庭での適切な食生活が営まれることなく入所してることが多いため、ユニット化により家庭的でこどもと一緒に食材の買い物から調理、片付けまでの一連の流れを経験する機会があり、自分たちの食事が出来上がるまでの過程を自然と体験することができるようになっていきます。食体験の機会をつくり、出来ることを増やしていきたいと思いチャレンジメニューを取り入れこども達と一緒にご飯作りやおやつ作りを行いました。栄養士が各ホームへ入ることによりこども達の要望を把握し献立に多く取り入れながら、安心・安全な食事の提供をすることができました。

21. 苦情解決

今年度苦情受付箱「みんなの声」を通じた苦情は0件、要望は6件でした。要望については、新年度ホームの編成について、おかずや野菜を増やして欲しい、wi-fi環境を作って欲しいなどでした。今年度前期は投函がなく、後期に集中していました。また例年ホーム編成の要望がたくさん出るイメージであったが、今年度は若干少ない状況でした。

22. 防災状況

児童養護施設においては、消防訓練は毎月実施が義務付けられておりますので、毎月異なった内容で取り組みました。職員が主となる昼間編成での訓練を6回、園児が主となり活動する夜間編成での訓練を6回実施しております。夜間編成では職員が少ない時間帯での活動となるため、訓練前には職員、園児で活動内容の確認をその都度行い訓練に取り組みました。その他には地震を想定した訓練を1回実施。早朝訓練と併せて職員招集訓練も予定しておりましたが、コロナ禍やインフルエンザの状況を考慮し、実施しませんでした。地域小規模児童養護施設、分園型小規模グループケアでは園児と避難場所や避難時の注意事項等を確認し、意識付けに取り組みました。

その他には緊急時に園児が安全に避難等の行動が出来るように、園内だけでなく各学校とも連携が取れるように努めております。高校生は緊急時の連絡手段として携帯電話を所持し、施設の固定電話、携帯電話、衛生電話の番号を登録していますし、連絡先の統一を図っております。また、月に一度の安全点検を継続して実施し、危険箇所や修繕箇所を把握し、必要に応じて改修を行いました。

23. まとめ

令和5年度は、園児34名でスタート致しましたが、途中入退所により、最終的には38名となりました。5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、学校等はコロナ以前の状態に戻った為入所児についてはマスクをしない生活となったものの、施設内に於いては継続して消毒等予防対策を行いました。その効果として、年間を通して新型コロナウイルス感染者が児童・職員共に発生はしたものの、感染が広がることなく終息しております。また、冬季に猛威を振るったインフルエンザにつきましても、罹患児童が2名程度で済んでおります。

さて、今年度の事業計画に対する達成状況ですが、重点事項の養育・支援の点では、産休・育休の職員が2名、急な病による長期休業の職員が1名、途中退職者1名が発生した為、職員不足から目標をクリアするのは難しい状況でありました。その様な中、困難ケースの対応に於いては、ケース担当ホームのリーダー的職員が抜けた状況ではありましたが、専門職と協力し合いながら何とか対応することができました。また、自立支援計画については、計画の作成に時間の余裕がなく、なかなかスケジュール通りに進まなかったことと、計画の中身の検討が不十分であり、課題を残した状況となっております。また、家庭・親子関係の調整では、家庭訪問等家庭支援専門相談員の動きが活発化し、家庭や関連機関の訪問等がスムーズに実施でき、3名の児童が早期家庭復帰に繋がっております。園児の権利擁護意識の向上については、例年通りの取組みは実施しているものの、今後は新たな取り組みの手法等について時間をかけて協議する必要があります。里親支援では、里親の研修会の実施や各所での啓発活動を積極的に行いました。しかしながら、里親と大洋学園の連携体制の構築については依然課題となっております。それから、行事その他につきましては、報告のとおり例年に則った形で実施いたしましたが、長期にわたるコロナ禍の自粛期間によって様々な部分で変化が見られた為、今後見直しを検討する必要があります。

運営面では、研修の参加が例年通り可能となり、キャリアパスを踏まえた参集型研修等多くの研修に参加できました。また、オンラインによる研修も継続実施されている場合もあり、こちらへの参加も積極的に実施いたしました。第三者評価については、12月に令和元年度以来の受診を受けており半年間に亘って準備を行っております。正式な結果は未だ示されておりませんが、概ね令和元年度と同様の評価となりそうです。施設整備の点では、園舎裏の斜面擁壁工事とフェンス設置工事が完了しております。

最後に、今年度大洋学園の子供たちが無事平穏に過ごせたことが何よりのことだと思っています。この1年、子供たちを支えて下さいました地域のみなさまを始め、多くの方々のご協力に感謝申し上げます。

げます。